

校長室だより

共学共高

第
11
号

令和3年9月7日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

実技教科のオンライン授業

全校オンライン授業が継続されているが、今回は実技教科のオンライン授業を紹介させていただく。

まずは、K先生の3年生美術の時間である。2時間続きの1時間目にお邪魔した。テーマは、「身近な植物をスケッチして切り絵を制作する」である。植物といっても、生徒たちは野菜や果物、花・葉などから自分で材料の一つ選んでいる。自宅の冷蔵庫から野菜を持ってきて、画面の前に置いている生徒もいるようだ。生徒たちにはあらかじめ白い紙と黒い紙が配られていて、黒い紙にはさみなどを入れて切り絵をつくり、白い紙に張り付けるのだ。

K先生が授業の流れなどについて説明する。「実際に実物を見ながらスケッチをしましょう。観察して表現する力を身に付けることが目的です。選んだ植物の特徴的な形をとらえましょう。」K先生は共有画面上に2つのナスが移った写真を示す。「同じように見えても違いがありますね。そうしたことにも気づいて表現しましょう。」「スケッチができれば、切り絵用にしていく作業に入ります。切るといことは、ある程度の線の幅が必要になります。また、生命力を表すためには、線の勢いが必要です。」先生の後ろのホワイトボードにはスケッチや切り絵のいくつかの見本が掲示されている。先生は、実際に玉ねぎを半分に切った実物を画面上で見せて、ホワイトボードの切り絵にするとこうなる、ということが生徒にもわかる。「スマホで参加している人は、立てかけて、両手をフリーにして作業スペースを確保してください。」と指示が出る。

引き続き、K先生が生徒たちに、反応ボタンを使って何を選んだか答えさせていく。野菜、果物、花・葉の順に多かった。生徒たちは、各自でスケッチの作業に入っていく。K先生はマイクをミュートにして、待機する。質問などはチャットで受け付けるとのことだが、今回は特に生徒たちからの質問はないようだ。ある程度の時間が経過したところで、進み具合を確認する。スケッチまで終了した生徒が多い。さらに、スケッチを終えて切り絵用に線を太くして全体の構成まで進んだ生徒も複数いた。驚いたことに切り始めた生徒も一人いた。まだ、その説明はしていなかったのだが、作業の早い生徒も中にはいるということだ。

K先生は次の時間に準備をするものを指示して一度授業を閉じた。元々9月2日からの対面授業では、絵画制作の単元として「実物を見てスケッチし、絵画をつくる」内容で実施する予定であったが、急遽オンライン授業に切り替わったために、「切り絵」に変更して授業

準備をしてくれたのである。まったく対面授業と遜色のない工夫がなされていた。



つぎに、E先生の3年生体育の時間である。2時間続きの2時間目にお邪魔した。テーマは、「卓球についての調べ学習」である。まずは卓球のコートについて調べ、それを図示して可視化する、次にシングルス・ダブルスのいずれかを生徒が選んでそのルールについて調べる、さらに卓球全般について自分なりの視点で調べる、といった課題が提示されている。「自分なりの」というところでは、例えば「ラリーを続けるコツについて」調べている生徒がいた。また、早く終わった生徒のために、「テレビ観戦したオリンピックについて」あるいは「インターハイの卓球の動画」について感想等を記入する用意がされている。

スクールタクトというソフトを使用して、生徒たちの作成したレポートを共同閲覧することができる。つまり、同じクラスの他の生徒全員のレポートを画面上で閲覧することができるのだ。生徒の中には、他の生徒のそれを見て、自分のレポートを改善する者も出てくる。また、E先生が「レポートに画像添付をするときには、できるだけ綺麗なものを使いましょう」と投げかけると、再添付する生徒も出てくる。

個人作業が続く中、E先生が質問や困ったときにはチャットを利用するようにと投げかけると、生徒から質問が寄せられ、先生はそれに回答を返信している。

私がいい投げかけだな、と感心したのは、「調べたことを今後の卓球の授業でどのように生かせるか」を生徒各自に記述させるところだ。これこそ、個々の生徒の学びが技能の向上につながっていく視点そのものである。良い問いは、生徒の思考や技能を発展させることへつながっていくものだ。

時間の経過にしたがって、数名の生徒が提出ボタンを押して、レポートを提出し始めた。授業の終わりが近づくと、E先生は再び共同閲覧にして、出席番号の隣の生徒のレポートを見て、コメントを記述するように指示を出す。生徒たちは、編集モードを使って、友達のレポートに色付きで記述をしていくのである。直接の生徒間の対話ではないが、こうした生徒同士で表現させる取組も「集団での学び」の一場面だと言えよう。



実技教科のオンライン授業、授業者の先生たちは創意工夫が求められ、大変な部分も多々あるはずだ。しかし、オンラインでもここまでできるのだ、という可能性を感じる事ができた。個々の先生の取組、そして教科チームとしての取組がオンラインでの生徒たちの確かな学びを成立させてくれていることが何よりも嬉しかった。

3年1組の美術選択のみなさん、授業の途中で校長の顔が画面に登場して、さぞかし驚いたことでしょう。今後は、ビデオ停止になっていることを確認してから画面をのぞき込むようにしますのでお許しを！

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)